

2014. 8・9 敬愛大学合同ボランティア活動報告

日時：2014年8月9日～11日

場所：名取市関上地区、愛島東部仮設



今年で4回目になる敬愛大学との合同ボランティアが8月9日からスタート。9日午後4時に生涯学習センターに敬愛大学45名、尚絅学院大学から4名の学生が参加してワークショップを行った。初めに名取市の保育士川島せつ子さんの震災体験を聞いた。川島さんは関上の児童センターで被災した。どす黒い津波にのみ込まれ九死に一生を得た強烈な体験談。体験の中に、命を守ったキーワードが幾つもあった。



川島さん本人がびっくりするほど冷静だったこと、どんな場面でも生き抜く気力を失わなかったこと、同僚や子どもたちと協力して困難に対処したこと、諦めなかったこと、状況に応じて情報を集め対処したこと、保育士らしく厳しい場面では楽しい歌を歌い励まし合ったことなどのお話を伺いました。川島先生のお話しをもとに、命を守るキーワードをグループに分かれ丹念に探った。生活者目線で、命を守る防災について考え、話し合いをもってグループごとにまとめ上げることができました。毎日のように私たちの身の回りで起こる災害に、常に備え学習し伝えることそして続けることを確認したワークショップでした。





2日目は早朝から関上朝市を訪問し活気ある市場の様を確認しお土産も購入。その後、関上で被災した長沼俊幸さんに案内していただき、関上町内をバスで見て回った。津波の高さを実感し、津波の破壊力を目の当たりにした。関上に津波は来ないと信じ直前までその場に留まったこと、防災無線が地震で壊れ機能しなかったこと、情報が錯綜したこと、渋滞が被害を大きくしたことなど多くの事柄をお話しいただいた。長沼さんから常に備えることの大切さ、命を守る学習の大切さ、正しい情報を得て対応できる知恵についてもお話しいただいた。更に年一回でも会いに来てくれることは、被災者にとって何にも勝る支援であることが話されました。



午前の学習の後は、当初の予定では、二つのグループに分かれキャンドルナイトの準備と愛島東部での清掃活動と交流会の予定でしたが、台風の影響でキャンドルナイトが中止になり全員での交流会となりました。



千葉特産の落花生を使った最中やお菓子クッキーを食べながらお話しが弾みました。仮設の皆さんからは、津波の話しや避難所での生活の様子や仮設暮らしの辛さや楽しさなど貴重なお話を聞くことができました。敬愛大学をはじめとして全国の皆さんから温かい励ましや気遣いを沢山いただき感謝していること、毎日集会場に集まり踊りや歌の練習を行っていること、互いに声掛け合って励まし合っていることなどが話されました。話の中で、集会場にまだ来ることが出来ない人がいて

心配であることから、いつも声がけして誘っていることなども話していただきました。住民がみんなで力を合わせている様子や、隣り近所を気に掛けている様子が伝わってきました。悲しみや辛いことを体験したから喜びも一緒に体験したい、分かち合いたい想いが伝わってきました。学生たちはそんな住民の想いを受け止め共感し励まし交流を深めておりました。関上大漁祝い唄、きよしのズンドコ節などをみんなで輪を作り、別れを惜しむように出発時間ギリギリまで踊り続けました。

敬愛大学との合同ボランティア活動は今回で4回目になります。回を重ねるごとに愛島東部の皆さんとの距離が狭まっているように思います。互いに気遣い励まし共感する姿はボランティアの原点そのものだと思います。互いに笑顔と爽やかさを持ち帰った合同活動となりました。